



とよおか

農香だより

No.43
2019.

8

頑張ってます！農地利用最適化推進活動 2P
農地パトロールを実施しました 3P
特集 伝統農産物・特産農産物の紹介 4P
シリーズ きばっとなる人らあ 5P

港地区 (豊岡地域)



担当している港地区でも農業に関係する地区は六地区あります。家庭菜園が主である地区、ほぼ地区全域をコウノトリの湿地にし、

新体制になり、二年、ほ場条件等地域性の似通った豊岡地域の北部エリア（田鶴野・五荘・奈佐・港地区）区域の推進委員と担当地区の現状、課題等について話し合う機会があります。

その中で各区域が抱えている問題は様々です。

ただ、どの区域でも目標は同じです。遊休農地の増加を止め、減少に向けて、各地区の推進委員は知恵を絞って頑張っています。



農地の状況



絹本推進委員
港地区



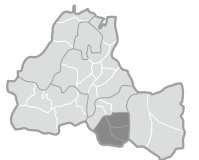
高尾農業委員
港地区

個人の力では限界がありますが、地域全体で協力し、高齢者に優しい、後継者が農業をしやすい環境づくりをすることが必要と感じています。

そのために、少しでも前に進む手助けができればと思います、活動をしています。

(推進委員 絹本 實)

弘道・福住・寺坂地区 (出石地域)



弘道・寺坂・福住地区は豊岡市の南部に位置し、出石旧町内から出石川沿いの但東方面と奥山川沿いの地区で、水稲作付面積は約百九畝となっています。

弘道地区は、水田が二十一畝あり、町分を中心とした農地と、山間部の農地に分かれています。水稲栽培は六畝と少なく、農家も十人程度と少なく、大半の農地が、他地区からの耕作者によって管理されています。

山間部の谷山地区では、農地の遊休化が進んでいます。近年、一部の農地でソバの作付が始まりました。春と秋にソバの栽培が行われており、遊休農地が解消されました。

寺坂地区では、水田が百一畝あり、但東方面に向かう出石川沿いの地区で、大規模農家を中心に七十七畝で水稲が栽培されており、中でも大規模区画整理された中川



仲川推進委員
弘道・福住・寺坂地区



井谷農業委員
弘道・福住・寺坂地区

地区では、水稲栽培と転作を区分けし、農地の集約化ができています。

福住地区では、水田が四十五畝あり、奥山川沿いの地区では、山に囲まれた小規模農地が多く、水稲栽培は二十六畝、大規模農家もなく、高齢化が進み耕作放棄地の解消はなかなか進みませんが、条件の良い農地は、近隣の方々に耕作を依頼し、解消につながっています。

農地利用最適化推進委員になり、三年目を迎えました。農地パトロールを行い、遊休農地の確認を行つています。小規模区画、有害鳥獣被害の深刻な場合は、管理が難しく、引き受け手も少なくなり、農家の方々と話し合い、農地をどう守っていくかを考えながら頑張っていきたいと思っています。

(推進委員 仲川 弘之)



遊休農地を解消して作付したソバ

農地パトロールを実施しました。

7月17日から8月2日にかけて、市内を11班（豊岡北A、豊岡北B（港地区）、豊岡南A、豊岡南B、城崎、竹野、日高東、日高西、出石北、出石南、但東）に分けて農地パトロール（農地利用状況調査）を行い、昨年、利用意向調査を実施した農地が回答した意向どおりに実施されているか、新たに発生した遊休農地、解消された農地等の確認を行いました。

この調査により、耕作されずに遊休農地となっていることが確認された場合は、所有者等に今後の利用意向を聞き取り、その意向を勘案した利用調整を行う必要がありますが、条件の良い農地でなければ、難しくなっています。

また、高齢で耕作をやめられる方や、耕作者が見つからない農地を早めに把握し、次の耕作者につなげる農地利用の最適化の活動にも取り組んでいます。

農地にかかる相談は、地元の農業委員・農地利用最適化推進委員までご相談ください。



農地パトロール実施



農地パトロール出発前の様子

人・農地プランに関する研修会を実施しました！



7月8日、第2回農地利用最適化推進委員会において、市農林水産課職員を講師に招き、農地利用最適化の推進に向けて、研修会を実施しました。

今後、人・農地プランの作成を検討される際は、お近くの農業委員・農地利用最適化推進委員へご相談ください。



昔から農家や地域で大切に守られてきた多くの伝統農産物や特産農産物等を皆さんに知ってもらい地域農業の振興に役立ててもらうため、平成28年度にマップを作成しました。(No.36農委だより)特集で農産物等を紹介していきたいと思います。今回は“但東のシルク野菜”と“丹波黒大豆”です。

但東のシルク野菜

但東地域には、地域特産のシルクコーン・シルクナス・ツタンカーメンのえんどうがあります。

平成十一年、但東シルクロード観光協会の発足を機に、他にない珍しいものを探す中で、この三つが生まれました。当時、マスコミで大きく取り上げられたことから、但東を全国にPRしたものです。

平成十七年からJAが受け継ぎ、但東シルク野菜部会が会員二十二名で発足しました。ピーク時には、売り上げが一人当たり年間四〇〇万円程度ありましたが、生産者の高齢化により、現在では大きく減少して



います。栽培上の課題は、シルクナスでは傷付き防止のための袋かけが大変なこと、シルクコーンでは、他品種との交配防止、ツタンカーメンのえんどうでは、普通のえんどうとの交配で莢の色が緑になってしまうことなどがあります。

地域おこしの一環として「シルク」を冠した特産品で、大規模な産地化を目指したものではありませんが、収穫時期になると、毎年マスコミにも取り上げられ、また近年、新規就農した若い専業農家も加わって、但東のシルク野菜は頑張っています。

(農業委員 森井 脩)

丹波黒大豆枝豆、ビールの友に最適

丹波黒大豆は、日高地域では昭和の終わり頃から平成にかけて、転作作物として取り組まれて、盛んに栽培されてきました。近年では、米の需給調整制度の見直し、耕作者の高齢化、天候不順による収穫量の減少などの理由で、稲作に転換されていきました。

JAたじま日高営農生活センターの河原さんに日高地区の様子をお聞きすると、名色地区の辻野吉昭さんが、今年二年目で約一ヘクタール栽培されており、枝豆として農協などに出荷・販売されているそうです。丹波黒大豆は、若い莢の時は、枝豆として、枝豆は、十月中旬頃から二週間ぐらいが食べごろです。十一月から十二月にかけて収穫するものは、正月のおせちの定番として食べられています。

また、枝豆の走りの時期は青く、熟すと段々と黒くなつてきます。枝豆で食べる際は、収穫後、

早めに茹でて食べられることをお勧めします。

収穫してから日が経った莢のものと食べ比べると味が断然違います。これは自家菜園の強みでしょうか。

おいしい食べ方
① 莢の両端を切る。(茹でる時間も短く、塩味が中まで染み込みます。)

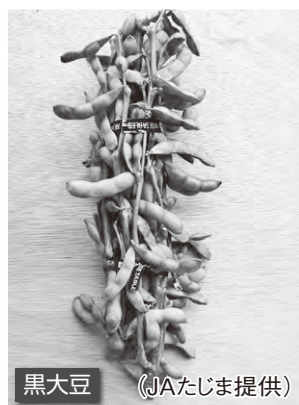
② 枝豆は水洗いし、たっぷりの塩でこすり合わせ、うぶ毛もきれいに取り除く。

③ 鍋にたっぷりのお湯を沸かし、塩がついたままの豆を入れ、アクを取りながら茹でる。

枝豆シーズンが始まるとザルにいったい茹でますが、食べ始めると手が止まらず、すぐに莢だけになります。

皆さんも是非お試しください。

(農業委員 上坂 光広)



地域の若い担い手として

清水 浩次さん(31歳)



「農業を営む父親の影響もあった。」という清水さん。いずれは農業をやりたいと考え、農業関係の高校から大学の農学部へ進み、農業全般の基礎を学んできました。

卒業後は、社会経験も必要との思いから一般企業へ就職。会社員として4年間、働きました。

「本格的に農業と向き合おうと考えていた時、豊岡農業スクールのことを知り、迷わず入校しました。2年間農業生産法人で65haもの大規模な水田を中心に実践的に学ぶことができた。」と話してくれました。

この春、農業スクールを卒業し、父親とともに気比地区の水田5.5haで、コシヒカリを中心に営農を開始。連休明けには田植えも終わりました。気比の水田は、「じる田」(湿田)が多く、面積が比較的狭く、点在するほ場を覚えることに苦労しました。また、獣害の被害防止の電気柵や雑草の管理も大変な作業です。

5月には、認定新規就農者となり、今後は認定農業者も目指し、新しい作業場を建設中です。

「今は、水田ですが、キャベツやハクサイ等の畑作、冬季には、ハウスを利用し、シュンギクやハウレンソウ等の葉物野菜にも取り組みたい。」と希望を語ってくれました。

港地区の担い手として、地域からも大きく期待されています。

(農業委員 高尾 利美)

「後世へ残そう、豊かな大地」

下島営農組合 組合長 岩本 隆夫さん(73歳)



城崎町の円山川右岸に位置する下島地区では、兵庫県・豊岡市等の行政やJA等関係機関の助言・指導を受け、「後世へ残そう、豊かな大地」をスローガンに、設立総会を開催し、組合員19名、農作業の受委託(耕うんから刈取りまでの各作業、乾燥調整、精米まで)を中心として、平成26年7月15日に下島営農組合が、発足しました。

その後、受託面積は、順調に増え、平成31年には近隣の結地区の農地13筆81aを受託し、現在では、下島・結の両地区で27筆184aの全作業を受託するようになり、組合員も23名になりました。

一方で、組合員の高齢化、後継者の育成、獣害の被害等、様々な課題もあるとのこと。今後は、

- ・地域全員で考え、担っていく農業
- ・困った時、気兼ねなく頼め、地域から遊休農地を出さない農業
- ・機械等の共同利用等により、低コスト化を目指す農業
- ・次世代の担い手を育成し、世代を超えて考える農業
- ・地域の文化と自然を守っていく農業

これらを目指し、頑張っていけるとのことです。

(農業委員 石橋 重利)

農業委員会

事務局職員の異動

平成31年4月1日の人事異動に伴い、
職員の異動がありました。

転入

事務局次長 上阪 善晴（財政課から）

転出

事務局次長 橋本 明宏
（教育委員会教育総務課・但馬歴史博物館へ）

農地利用最適化推進
委員の変更について

合橋地区全域の農地利用最
適化推進委員が岡本由紀夫委
員から千原武敏委員へ変更に
なりました。



千原委員

「農業委員」・「農地利用最適化推進委員」募集の予告

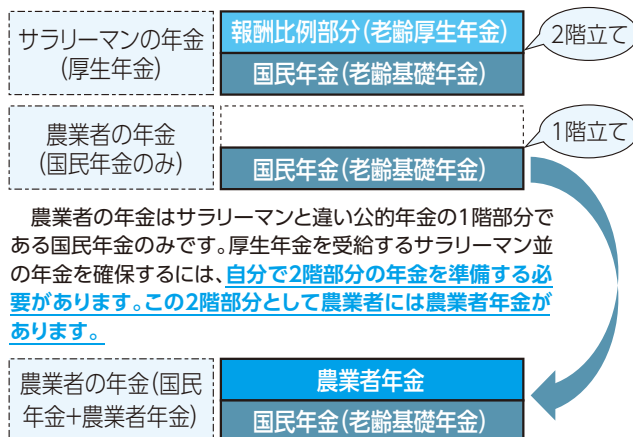
今期活動いただいている委員の任期が、2020年4月20日に満了します。
これに伴い、次期委員の募集を予定しており、事前にお知らせします。

募集予定時期は、2019年11月～12月頃です。

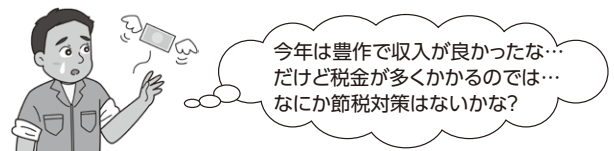
詳細が決まりましたら、市のホームページなどでお知らせします。

知らないで損！ 農業者年金の税金対策と保険料補助 短し手積み年金

まず農業者年金ってなに？



農業者年金は支払った保険料の全額が社会保険料控除の対象です。



前納すれば翌年1年間の保険料も全額社会保険料控除に使える！

生計を一つにする配偶者や後継者の保険料を支払った場合は、その合計額(最高保険料6万7千円の場合は3人分で241万2千円)が経営主の所得から控除できます。

農業者の担い手には、保険料の国庫補助があります。

保険料の国庫補助を受けるには…

国民年金第1号被保険者等の農業者年金への加入要件に加え、

- 39歳までに加入
- 農業所得が900万円以下
- 下記の農業者の担い手要件を満たせば受けられます。

- ① 認定農業者で青色申告をしている人
- ② 認定新規就農者で青色申告をしている人
- ③ ①または②の要件を満たす経営主と家族経営協定を締結して経営に参画している配偶者、後継者 など

月額最大1万円の保険料補助

詳しい内容のお問合せは…

お近くの農業委員会・JAへ!!

でも…加入する条件があるんでしょ？

農業者年金へは…



農業委員・農地利用最適化推進委員一覧表

地域名	地区名	農業委員	農地利用最適化推進委員	地域名	地区名	農業委員	農地利用最適化推進委員
		氏名	氏名			氏名	氏名
豊岡地域	八条・豊岡地区全域	西沢 泰裕	宮村 吉一	日高地域	国府地区全域	上坂 光広	植村 政明
	中筋地区全域		池畑 一己		八代地区全域		平野 薫
	三江地区全域	齋藤 善久	松島 一夫		日高地区全域	宮岡 正則	安岡 平夫
	田鶴野地区全域	村田 憲夫	阪井 裕		三方地区全域	宮口 豊隆	水嶋 明彦
	五荘地区全域	蜂須賀久人	原田 益男		清滝地区全域	田中 直喜	西口 覚
	奈佐地区全域		石原 章二		西気地区全域	原 清美	井上 孝
	新田地区全域	北垣 裕次	岡本 光夫	出石地域	弘道・福住・寺坂地区	井谷 勝彦	仲川 弘之
	神美地区全域		栗原 安信		菅谷・室見台地区		杉本 武己
城崎地域	港地区全域	高尾 利美	絹本 實		小坂地区全域	水嶋 義彦 (田多地・安良を除く)	川口 義昭
	城崎地域全域	石橋 重利	岩本 照雄		小野地区全域	大原 博幸 (田多地・安良を含む)	中務 喜紹
竹野地域	竹野南地区全域	尾口 正信	福丸 義章	但東地域	資母地区全域	永井 辰正	松本 雅浩
	中竹野・竹野地区全域	加悦富美恵	天野 辰男 (中竹野：福丸義章)		高橋地区全域		桑田 均
					合橋地区全域	森井 脩	千原 武敏

あなたの地域、地区の農業委員と
農地利用最適化推進委員です。

農地の売買・貸し借り・転用、人・
農地プランの作成検討、農業者年金の
ことについて、お気軽にご相談ください。



バーベキューガーデン

当館では、バーベキュー
スペースを設備しております。
満天の星空を眺めながら
自然の醍醐味をご堪能く
ださい。



神鍋高原・名色



旅の宿 ときわ野

〒669-5379 兵庫県豊岡市日高町名色1328-1
TEL 0796-45-0258 FAX 0796-45-0829
URL <http://www.tokiwa-no.com>
MAIL info@tokiwa-no.com

表紙について 竹野町三原の棚田

豊岡市には、三地区の三原（みはら）があります。一つ目は、京都府京丹後市久美浜町との境にある集落です。二つ目は、但東地域の真ん中に位置する所にあります。三つ目は、写真にある竹野地域の三原です、標高の一番高い所にあります。

地区の戸数は37戸あり、農地は田畑あわせて、8haあります。遊休農地1haで牛の放牧が実施されています。

地区では、かつてはハス祭り、積雪が多いのを逆手に取った、雪まつりを2月に実施しており、多くの人で賑わっていました。現在は、お盆前の朝市に向けて、集落内のあちらこちらでお花を栽培されており、10月には、三原の風まつりが開催されています。

今後、この美しい風景と農地を守るためには、人材の確保と特産品の開発が必要です。

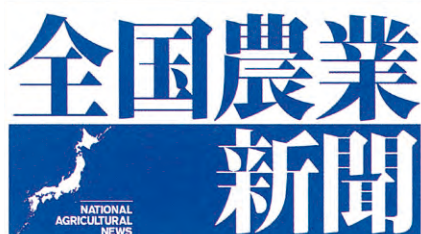
（農業委員 尾口 正信）



棚田の風景



お盆前の朝市



全国農業新聞を購読してみませんか！

農業の最新情報を提供

週刊(毎週金曜日発行) 月 700円 (送料、消費税込)

*お申し込みは
農業委員会
事務局へ

編集後記

港認定こども園での「食農教育」。四月にジャガイモ、五月にサツマイモを植え付け、オクラのタネも蒔きました。子どもたちは砂まみれになりながらも収穫が楽しみです。みんなで摘んだ畑の隅のヨモギは「よもぎ団子」のおやつになりました。

五月、とれたての天然ワカメ。さつと湯通しするときにいい緑に！びっくりしながら「ワカメのしゃぶしゃぶ」をいただきました。十一月には、「セコガニ」も給食に登場します。

子どもたちは、自分の手でタネをまき苗を植え、収穫しておいしく食べることで、その地域の海の幸・山の幸を使った食文化「伝統食」に触れることで多くのことを学びます。農業委員会の一員として、一人の大人としても地域の代表的な産業「農業・水産業と地域の文化、伝統食を次世代へ継承する役割を担いたいと思っています。

（編集委員長 高尾 利美）



農業委員会だより第43号は私たちが担当しました。

後列左から 石橋重利、尾口正信、水嶋義彦
前列左から 森井 脩、高尾利美、上坂光広